

Campus Today



真の教育を追求する新たな年に

飛躍を誓う仕事始めの式

新年仕事始めの式が一月十日(火)に挙行され、講堂には本学教職員全員が集い、気持を新たに新年のスタートを切った。式では永年勤続者表彰、ならびに矢ヶ崎 康理事長による講話が行われた。

式は出席者全員による校歌斉唱で始まり、続いて永年勤続者の表彰が行われた。本年の表彰者は三十年永年勤続者十一人、二十年永年勤続者二人の、合わせて十三人。表彰者には表彰状と記念品が贈られた。

永年勤続者を代表してあいさつに立った川上敏行教授(大学院硬組織疾患制御再建学講座)は感謝の言葉を述べるとともに、三十年の時の流れを振り返り、「教育を巡る環境の変化と同時にキャンパスを取り巻く

環境が大きく移り変わるなかで、学は一步一歩確実に充実し、進歩を遂げてきました。私たち教職員はそれらの変化に適切に対応していくことが責務であると考えます。今後、大学の発展のために精進していきま



永年勤続者を代表してあいさつする川上教授

べられた。また、アジアにおける日本の責任についても言及され、日本国民皆が正しい歴史認識を持つことの必要性を訴えられた。そして最後に、本学においてはこれから変わることもなく愛を持って教育に携わり、教職員全員が力を合せて学生を育ててほしいと述べられた。

中田 稔特任教授
日本歯科医学会会長賞を受賞
東京都・新歯科医師会館において日本歯科医学会(齋藤毅会長)の二〇〇五年度会長賞授与式が、十二月十六日(金)行われ、本学の中田 稔特任教授が日本歯科医学会会長賞(教育部門)を受賞した。

第8回FD研修会

リメディアル教育の必要性を認識

第八回FD研修会が一月十七日(火)、六〇一教室で開かれた。「各大学が始まったリメディアル教育、やる気にさせる教育・補完教育」と題して、独立行政法人メディア教育開発センター(研究開発部・小野 博教授)による講演が行われ、多くの教職員が出席した。

中田特任教授の受賞は、長年にわたり歯科医学教育に従事し、その向上に貢献したことが高く評価されたことによる。一九九一年に制定された日本歯科医学会会長賞は、「歯科医学・医学の研究」「歯科医学教育」「地域歯科医療」において顕著な功績があった。

大学生の学力の大幅な格差や理科などの未履修科目問題、ゆとり教育の影響が二〇〇六年度から顕著になってくることなどを考慮し、近年は入学してくる学生の実態に合わせた基礎学力の支援教育(リメディアル教育)の必要性が高まっている。歯学教育では特に高度な専門的な学習が必要のため、基礎的知識の習得は不可欠である。つまり、大学教育に必要な知識は大学で教える時代が来ているといえるのである。加えて、学習を支援

するための理解力の強化、学習意欲の育成、自学自習の習慣付けなどの指導も重要となる。このような初年次教育を進めてゆく上では、従来型の講義形式に加えて、e-learningなどによる自習とチューターをつけた個別化した指導、また、小さなことでも達成感を体験しながら前進していくことが効果的である。これらのことを語られた小野教授は、大学として多様な学習履歴・学力の学生を受け入れた以上、大学はそれらの学生をサポートしていくべきであり、リメディアル教育の趣旨はそこにある、と強調された。



講演する小野先生

お天気歳時記
元日本気象協会調査役
お天気コンサルタント
三日は節分。「福は内、鬼は外」と豆をまいた思い出は懐かしい。節分は本来、一年に四回あったものだが、いまは立春の前日のこの時期だけが残っている。昔のさまざまな風習がなくなっていく時代に、この節分の豆まきだけは、むしろ盛んになっているのは妙である。
「花の盛りは、冬至より百五十日とも、時正の後七日ともいへど、立春より七十五日、おぼやうたがわず」(徒然草)。時正というのは春分の日のこと。立春から数えるのがいちばん当たっているというのが兼好法師の観測だ。
立春の声を聞いても、あたりはまだ冬の続きで、寒々としている。それなのに南国からは早くもウメの開花の便りが届き、東京付近でもジンチョウゲのつぼみが赤味をさしてくる。
太平洋側の地方は年の暮れから乾燥状態だった所に、ある日もすこい砂ぼこりを巻き上げながら、なまやかな南の「春一番」の風が吹き荒れる。かと思えば、雨がみるみる雪に変わって一面の銀世界になることがあるのも、この月である。逆に、雪雲に閉ざされていた日本海側にはしばしば晴れ間がのぞくようになる。ことに今冬のように記録的な豪雪に見舞われた地方の人々にとっては待ちに待った春の呼びかけである。
日差しが伸び、明るさも日ごとに増してくるが、まだまだ季節は冬の領分である。しかし、寒い寒いとなげいているうちに、いつしか聞こえてくるヒバリの声に春を感じる。
冬と春の交代が始まるのが二月だ。

第三種郵便物認可

永田町便り

(126)



新しい時代が静かにいや騒々しく動き始めている。

その中で最も賑やかなのが政界ではないかと思うほど連日のように政界の重鎮と呼ばれる人びとの発言が、新聞、雑誌、テレビなどマスコミ全体に溢れている。

その人たちの発言が日本中、特に政治の世界を揺り動かして

21世紀の政治のあり方

参議院議員
本学理事

法藤道夫

いるかのごとくであるが、国民サイドからみれば、「一体何を騒ぎ立てているのか。政治家ならば国を動かすくらいの勢いを持つて、もっとはつきりと中心点を高々と掲げて国民に訴えるべきではないのか」という思い

「とつぶやいているだけのことで、その中から「新しい国づくりがどうあらねばならないか」との重みのある討議は全く見えてこなかった。

各党の代表者にしてからが、「よろしく願います。是非

を見つめ国民の一人ひとりが深く考えるべき時が来ている。それらの思いをひとつにとりまめて国の将来、さらには世界全体の行く末を形づくっていくのが政治家に与えられた使命であることを改めて考えてみるべ

として、時に総理の地位にあつた、ということも自分がまさにそれに相応しい人物であったとの神の思召しでもあり、言い換えれば国民の総意によってその地位に就いたのだという思いを深く深くかみしめて、己に与えられた職務に取り組んでいくべきである。

先日はある英文を読んで「たつき」 Pediatric Density (小児愚鈍?) という愉快な言葉に出くわしました。歯科医学分野の話だったので、明らかに Pediatric Dentistry のことですが、あまりにもおかしかったので、試しに他にも同様の例がないかとインターネットで検索してみました。すると、American Pediatric Dentistry 及び Professor of Pediatric Dentistry などがソロソロと出てきました。このように、話し手や書き手がいつか言葉混同して「たつき」 Pediatric Density といふ誤用をすることがよくあります。これは malapropism といいますが、時には笑いやおかしさを狙ってわざとやい間違えをする場合もあります。この density で、まず私の頭に浮かんだのは、バック・トゥ・ザ・フューチャー という映画のシーンです。主人公が過去に戻ったとき、自分の父親が緊張して好きな女の子(母親)に愛を告白するシーンがあります。そこで有名な歌詞 "you are my destiny" (君はわが運命) をもじって、「ぼくは君の運命の人だ」と言おうとするのですが、"I am your density" (ぼくは君のトンマ) と言ってしまうというところです。この父親の役柄がちよっと間が抜けているので、ピッタリの malapropism になり、爆笑を誘います。ところでこのシーンの翻訳では「ぼくは君の密度だ」となっていました。が、「密度」とは脚本家の狙った笑いのニュアンスが伝わりません。"dense" は「鈍い人」、「間抜け」といったことを意味する口語表現です。

視点



地球温暖化の巡り合せがもしれないが、信濃路の今冬十二月以降の寒さは例年になくやりにくいものがある。

近年は諏訪湖の全面結氷も稀になってきたし、殊に戦後の水の汚染は一層凍結を困難なものにしてきた。ところが今年の正月を挟んだ強烈な凍みは格別

で、寒天の笑みと共に例の「神渡り」も正月十日頃には綺麗に裂けて無事に渡り終えたらしい。その裂けた氷の高さも、水の清らかだった昭和初年頃の百三十七センチには及ばないにしても、半分の六十センチほどには盛り上がったといわれる。

こんな寒空の下にありながら今冬の松本、諏訪、伊那、木曾、安曇、佐久、軽井沢などの各地籍には、いつもの年のように相当量の降雪というものが殆どない。連日の過ぎたる異常乾燥と寒波のためらしい。反対に特に平年より水温が高くなったとい

が強くなっている。昨年九月、第四十四回衆議院総選挙が実施された。二〇〇三年に次ぎ、今世紀二度目の実施となった今回の衆議院総選挙は、この日本という国の二十一世紀のありようを示す、誠に重要な意義を持つ選挙

である。極端な言い方をすれば、政界関係者の一方は「勝った、勝った」と躍りあがり、他方は「残念だが、わが方は負けた。次回選挙にはこの始末をつけてやる

に雨の降ることもあったがそんなことは稀であった。山や日陰道路端には常時雪があつたし、降る雪もサラサラでボタ雪は少なかった。小学五・六年当時、雪が深々と降り積もる夜八時過ぎ、一人で傘をさし、傘を回し回し雪を落とすつつかを考えた。中田喜直作曲による叙情溢るる真に格調の高いもので、歌手の

に雨の降ることもあったがそんなことは稀であった。山や日陰道路端には常時雪があつたし、降る雪もサラサラでボタ雪は少なかった。小学五・六年当時、雪が深々と降り積もる夜八時過ぎ、一人で傘をさし、傘を回し回し雪を落とすつつかを考えた。中田喜直作曲による叙情溢るる真に格調の高いもので、歌手の

この新しい時代が始まるその時に一国のリーダーたる地位に在ったとすれば、ある意味でこの新しい世紀がスタートしよう

ならば雪の中に直角三角形が現れたり、定理や公式が突如浮かんだり消えたり、一般の人々ならば生活や家族のこと、病人や別れのことなど、大体淋しいことが多いものだ。

この歌詞もそうだ。「何かは分からぬが胸一杯の悲しみが満ちてきた。そんな悲しい不幸の足音が知らず知らず自分を引っぱっていつてしまふ。こんな悲しみはもう御免だ。雪は美しくロマンティックであつて欲しいのだが、時にはこんな良くないこともある。早く緑萌ゆる春のそよ風が吹いて、今の自分のこの悲しい心を癒して欲しいものだ。」そんなことを詠っているのではなからうか。

雪と氷は怖いこともあるが嬉しい思い出も育ててくれる

美声がさらにこれをモディファイして、昔々の子供の頃の「雪の降る町や村々」の姿や心情的なものをいかに上にも彷彿させてくれたものだった。

創立者

矢崎康

が田畑の潤潤のために十センチ位は残っていて欲しいものだ。そんななか寒気の後退と太平洋上に西からの低気圧が通過した

関係から関東、就中東京、千葉、茨城など太平洋側地域では八センチから二十センチ位のボタ雪が見舞われた。それでも乾き切った信濃路の寒い地域では降りそうなき曇天でも単なる思わせぶりか山際で義理的に一センチ位舞ったほどで相変わらずの空

た昔の町の薄暗い灯も雪明りで色白に映え、降る雪も美しく光って限りなくロマンティックに見えるものだ。そして何となく淋しいがしかしとなく楽しく嬉しくて、もっと降れもっと降れと心のなかでは子供らしく

強烈に湧き出てきて、まさに「遠い国から落ちてくるこの熱い思い出を、いかにせんである。そしてこの、幸せだったその時代の雪の嬉しさや多くの思い出を、そっと包んでおいて、またいつの日か引き出しては詠い楽しんで行こう」といふもの。

この新しい時代が始まるその時に一国のリーダーたる地位に在ったとすれば、ある意味でこの新しい世紀がスタートしよう

ならば雪の中に直角三角形が現れたり、定理や公式が突如浮かんだり消えたり、一般の人々ならば生活や家族のこと、病人や別れのことなど、大体淋しいことが多いものだ。

この歌詞もそうだ。「何かは分からぬが胸一杯の悲しみが満ちてきた。そんな悲しい不幸の足音が知らず知らず自分を引っぱっていつてしまふ。こんな悲しみはもう御免だ。雪は美しくロマンティックであつて欲しいのだが、時にはこんな良くないこともある。早く緑萌ゆる春のそよ風が吹いて、今の自分のこの悲しい心を癒して欲しいものだ。」そんなことを詠っているのではなからうか。

温暖化現象とはいえ確かに地球全体がおかしくなった感じがする。従来の経験や常識を孫た

筆者の生まれは上伊那。上伊那も松本や諏訪と同じく冬は寒かったし、昭和初年頃は三、四十センチの雪は大体十二月末頃から降ったものだ。大雪のときで大体四、五十センチ位だった

感というものは自然に還れば常

今まで理想的だった日本の気象も、近年来人間と共に狂いを生じてきたように思える。

今まで理想的だった日本の気象も、近年来人間と共に狂いを生じてきたように思える。

今まで理想的だった日本の気象も、近年来人間と共に狂いを生じてきたように思える。

今まで理想的だった日本の気象も、近年来人間と共に狂いを生じてきたように思える。

第三種郵便物認可

最終講義

口腔衛生学講座・近藤 武教授 歯科保存学第1講座・太田紀雄教授

惜しみない拍手に送られ

本年度を最後に定年退職される口腔衛生学講座・近藤 武教授と歯科保存学第1講座・太田紀雄教授の最終講義が、一月二十日(金)と二十六日(木)にそれぞれ行われた。



講義する近藤教授



講義する太田教授

最終講義が行われた講義館二二教室には、両講義ともに本学役員をはじめ教職員が多数出席した。また学生以外にも教授の退職を惜しむ本学卒業生や、過去に講座スタッフとして携わった方々などが詰めかけ、最後の講義に耳を傾けた。そして講義の終りには、抱えきれない程の花束と拍手が両教授に贈られ、皆の胸に深く刻まれる最終講義となった。

近藤教授は一九七三年本学に赴任され、以来三十三年間にわたり公衆衛生に関する思考力と行動力を持つ歯科医師育成に努められる一方、地域の歯科保健体制の確立に多大な貢献をされた。また、フッ素過剰摂取の歯の形成に及ぼす影響に関する研究でも国内外で業績をあげられ、

目前に迫った 歯科医師臨床研修に向け、 受け入れ体制整う

来る四月一日より新制度による歯科医師臨床研修が施行される

学と私の歩み」で、歯周疾患の分類と特徴、そしてその診断から治療法に至るまで、歯周病学の変遷について解説した。

松本歯科大学病院では、七十一の協力型臨床研修施設と二十の六研修協力施設の協力を得て、三種の臨床研修プログラムを作成し、研修を行う。本学はこれにあわせ校友会、父母会、歯科医師会等の関係各位のご協力を得ながら、指導歯科医確保のための指導歯科医講習会の開催、病院診療体制の整備(一般歯科の新設、チーム診療制)等、ほぼ順調に受け入れ体制を整えてきた。

四月五日(水)の歯科医師国家試験合格発表後、合格者は研修歯科医師として、本契約を履行し、翌六日から研修を始める。現時点では、何かと問題の多い本研修制度ゆえに今後、関係者各位に多くのご迷惑やご苦労をおかけすることになるかと

私立・国公立別にみた大学病院マッチングの結果

施設	募集定員	マッチ数	マッチ率	自 学 自 身 出 身 者 数	自 学 自 身 出 身 者 率
私立歯科大学病院	2455	2188	89%	1890	86%
国公立歯科大学病院	889	797	90%	583	73%
合 計	3344	2985	89%	2473	83%
松本歯科大学病院	170	145	85%	141	97%

主張 愛国者について考える

二月十一日は「建国記念の日」ということで、今年も「日本の建国を祝う会」が、奉祝中央式典を東京・代々木の明治神宮で開催するなど、各地で「愛国者」を自称する人びとによるさまざまな行事が予定されている。

あいつつによれば、教育勅語があった時代は日露戦争など栄光に満ちていたが、「米国憲法」と「教育基本法」による「日本弱体化政策」で戦後六十年は屈辱の時代なのだそう。

読者諸賢の多くは六十歳未満であろうが、あなた方が受けてきた教育、日本人としてのあり方が否定されているのだ。

なかた。それでも生きて帰れたからまだ幸せで、何百万人も日本人が異国の地で仆れ、遺骨さえも祖国には戻れなかった。

言論や思想信条の問題で、少なくとも公的には、かつてのような拷問や処罰を加えられる心配もなく、自由な生活を楽しめるようになった。

「祝日法」は「建国記念の日」を「国を愛する心を養う日」と規定している。平和と民主主義の理想を高く掲げた日本国憲法と、その理念に基づく教育基本法こそが、わが国が世界に誇るべき宝物であり、それを断固として守りぬくのが、本日の愛国者の務めではないだろうか。

「日本書紀」に記載されている「辛酉年春正月」を太陽暦に換算しただけの非科学的な記念日よりは、世界に誇るべき日本国憲法が施行された五月三日あるいはわが国の独立が回復した九月八日のほうがはるかによいのではないだろうか。(笠原 浩)

本格的な大学入試シーズンの幕開けとなる大学入試センター試験が、一月二十一日(土)・二十二日(日)の両日行われ、「松本歯科大学試験場」では、二百十六人が受験した。全国の志願者は、昨年より三・三%少ない五十五万三千八百八十二人で、そのうち長野県内では約一万人が志願した。

チャリティーバザー 収益金を寄付

松濤祭実行委員会

第二十四回松濤祭実行委員会が、十二月十九日(月)、塩尻市社会福祉協議会へ、松濤祭チャリティーバザーの収益金の一部、十万円を寄付した。



寄付金を手渡す星野君(右から2人目)

今年九月に行われた同バザーでは学生や教職員らが持ち寄った家具や電化製品、ぬいぐるみなどが販売され、子どもからお年寄りまで大勢の地域の方々から好評をいただいた。

センター試験 実施される

今回の試験から「ゆとり教育」の総決算ともいえる新教育課程を履修した高等学校卒業見込者が対象となり、出題が六教科三十二科目から六教科二十八科目に再編。新たに「外国語」の英語でリスニングテストが導入された。

第三種郵便物認可

大学院セミナー

1月に開催された大学院セミナーのなかから、齋藤正寛先生のセミナーを紹介します。

- ・11日 大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻助教授 中野貴由先生
- ・18日 静岡市立清水病院口腔外科 井川雅子先生

歯根膜再生のメカニズム

神奈川歯科大学口腔治療学歯科保存学分野講師
齋藤 正寛先生



講演する齋藤先生

第108回松本歯科大学大学院セミナー（1月20日）に神奈川歯科大学口腔治療学講座歯科保存学分野・齋藤正寛講師をお招きし、「歯根膜再生のメカニズム」と題してご講演いただいた。近年、歯の発生に関する研究は進んできているものの、多くは歯冠のエナメル質形成や象牙質形成についてであり、歯根形成や歯周組織形成についての知見は乏しく、セメント芽細胞の特異的マーカーも同定されていないのが現状である。講演の前半では、ウシのセメント質を抗原としてモノクローナル抗体を作製し、セメント質に特異的なタンパク質が存在することを示された。現時点ではウシの遺伝子情報は乏しいこと、抗体のエピトープを決定できないことなどから、詳しい解析は進んでいないとのことであるが、新規タンパク質の同定、機能については興味あるところである。後半は、マウス切歯歯小嚢細胞由来の不活化細胞を用いて、セメント芽細胞の分化機構を明らかにすることと歯周組織の再生を目指したものであった。この細胞はβ-TCPやヒドロキシアパタイトをキャリアーとしてマウス皮下に移植すると、骨芽細胞のマーカーである骨シアロタンパク質やオステオカルシンなどを発現し、セメント質様構造やSharpey線維様構造を形成する。また、腱に特異性のある転写因子の一つのScleraxisやADAM(a disintegrin-like and metalloprotease)ファミリーに類似したADAMTSL4を分泌し、ADAMTSL4はfibrillin1とともに歯根膜のオキシタラン線維に局在することを免疫組織化学的に示された。歯軸方向に走行するオキシタラン線維の詳しい機能については分かっていないが、歯根膜の形成や再生に重要な意義を持つのではないかとのことである。歯周病治療やインプラント治療においては、歯周組織の再生が重要である。今回ご講演いただいたような歯周組織の発生過程を解明する基礎的研究とその機構を臨床応用に結びつける研究の必要性を感じた。

(口腔解剖学第2講座 教授 中村浩彰)

その対応 根管形態から処置としての歯の再植まで」と題し、それぞれ講演が行われた。石原先生は講演のなかで、歯周病原菌の病原性に加えて、最近バイオフィルムが注目されていると述べ、細菌はバイオフィルムを形成することによって分裂速度などの変化を起し、特に集合体を形成することによって、菌の密度が上昇すると有機体を構成するクオラムセンシング現象を起すことから、歯周炎



塩尻市役所ロビーでの写真展

このコンテストは塩尻市商工会議所が主催。昨年十一月末より市内の一般家庭や企業や団体などにコンテストへの応募を呼びかけていた。一月二十九日(日)に行われた表彰式には田中正治専務理事が出席し、賞を受けた。なお、受賞したイルミネーションの写真展が一月から塩尻市役所、塩尻市榑川支所、塩尻駅において行われ、訪れる人の目を楽しませた。

松本歯科大学大学院 2006年度入試日程(2次募集)

募集人員：10人程度(社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を含む)
試験会場：本学(実習館) 入学検定料：30,000円
試験科目：一般選抜=外国語(英語)・面接/社会人特別選抜=面接
外国人留学生特別選抜=語学(日本語または英語)・面接
出願期間：2006年2月6日(月)~2月17日(金)
出願資格の審査が必要となる場合があります。事前に問い合わせの上、手続きをしてください。
試験期日：2月24日(金) 合格発表：3月2日(木)
問い合わせ先：松本歯科大学大学院事務課 TEL 0263-51-2216・2217



表彰された教職員

永年勤続者表彰

一月十日(火)に行われた仕事始めの式で、長きにわたり大学の発展に力を尽くされてきた十三人の永年勤続者が表彰された。表彰者は次のとおり。

- 三十年永年勤続者
- 前列左から
富田 眞弓(口腔衛生学講座 歯科衛生学第一) 川上 敏行(歯科衛生学講座 歯科衛生学第二) 上條 勝(庶務課 係長) 森下 芳郎(学事課 係長) 塩原 健一(学事課 主任) 赤羽 二郎(校務課 事務長)
- 二列目左から
赤羽 稔(病院事務課 事務長) 村井 和美(病院事務課 係長) 吉江みはる(病務課 係長) 深澤 常克(病務課 係長) 三列目左から
三列目一番目から
若林 英美(看護課 主任)

校友会卒後研修セミナー

よりよい歯科医療を 実践するために



関心の高いテーマを取り上げたセミナー

では、バイオフィルム形成がその病因に重要な役割を占めていると説明され、これを確実に除去することが大切であると強調された。一方、中川先生は講演のなかで、日常臨床でもっとも頻度の高いのは根管治療で、なかでも感染根管治療は根尖部における病態と病因としての細菌との戦いであると述べた。近年、感染菌種のなかでも嫌気性菌の存在が、難治性の根端性歯周組織炎の原因菌として注目されている

と説明され、それに伴って特異性薬剤である抗菌剤の局所的あるいは全身的な投与による治療が注目されており、感染菌種の特定と、それに感受性を示す適切な抗菌剤の投与によって、選択的かつ効果的な成果が期待できると解説された。セミナー当日は寒い天候にもかかわらず、多くの校友会員並びに歯科衛生士の方々に出席していただき、熱心にメモをとる姿が大変印象的であった。(校友会後修セミナー委員・12期生 小野喜徳)

イルミネーション コンテストで 本学が特別賞

榑川村(旧木曾郡)との編入合併による新塩尻市誕生を記念して行われたイルミネーションコンテストで、応募総数二十九作品のうち、本学の「MDUIルミネーション」が特別賞に選ばれた。

Economic News

内外の経済 1月25日付

日本	15,651.00円	米ドル	115.10円	2.54%
米国	10,709.74ドル	英ポンド	205.00円	1.93%
金地金店頭価格(消費税込み)		ユーロ	141.00円	0.78%
売り(1グラム)	2,193円	スイスフラン	90.00円	0.01%
買い(1グラム)	2,131円	タイバーツ	2.93円	0.01%
白金地金店頭価格(消費税込み)		円		0.02%
売り(1グラム)	4,123円			(シティバンク調べ)
買い(1グラム)	3,998円			

衛生学院 28日(火) 一般入学試験(中期)

24日(金) 大学院学生選抜試験(2次)

20日(月) 臨床研修医追加選考試験

18日(土) 19日(日) 病院指導歯科医講習会

17日(金) センター試験合格発表

13日(月) 第99回歯科医師国家試験(東京)

11日(土) 12日(日) センター試験利用入試

8日(水) 後期定期試験(第1~4学年)

6日(月) 17日(金) 一般入学試験(前期)合格発表

2日(木) 本学・東京・大阪

2月行事予定

受験生の皆さんへ
見せてほしい 君の個性 君の情熱

一般入試(中期)
2月28日(火)
出願期間
2月6日(月)~2月22日(水)
試験会場 本学

一般入試(後期)
3月22日(水)
お問い合わせ
HOT LINE 0263 54 3210
松本歯科大学 広報課
www.mdu.ac.jp